# “V到”表現をめぐる日中対照研究(1)

A Contrastive Study of “V到” Forms in Chinese and Their Corresponding Expressions in Japanese(1)

成戸　浩嗣　Koji　NARUTO

**概　要**

中国語の“-到”は、他動詞の後に置かれていわゆる結果補語となり、例えば

(1) 我好容易才找**到**了朋友的家。(『岩波 日中辞典』「さがしあてる」の項を一部修正)

のような表現を構成することが可能である[1)]。一般に、“V到”表現においてはVと“-到”が「動作の過程(働きかけ) ── 結果」の関係を表わし、“-到”が表わす「結果」は、動作がその目的を達したこと、成就したことであるとされる[2)]。このような“V到”表現が表わすコトガラを日本語で表現した場合、例えば(1)に対する

(1)’私はやっと友人の家を**さがしあてた**。(同上)

のように、“V到”に対して日本語のいわゆる複合動詞が対応するケースがみられる一方で、

(2)　我捡**到**了一个钱包。(荒川 1989：17)
(2)’私は財布を**拾った**。(同上を一部修正)

(3)　你找**到**了什么好工作了吗？(『岩波 日中辞典』「みつかる」の項を一部修正)
(3)’何かよい仕事が**見つかりました**[3)]か。(『岩波 日中辞典』「みつかる」の項)

のように他動詞、自動詞が単独で対応するケースや、

(4)　戏票买**到**了。(郭春貴 2001：319)
(4)’芝居の切符が**買えました**。(同上)

のように可能表現が対応するケースも存在する。このような対応関係が成立するのは、言うまでもなく、“V到”とそれに対応する日本語諸形式との間に統語上・意味上の共通点・相似点あるいは接点が存在するためと考えられる。本稿は、上記のような対応関係が成立する要因について考察を行なうとともに、先行研究において十分には明らかとされなかった“V到”や日本語の複合動詞、他動詞、自動詞、可能表現の諸特徴についても一定の見解を提示することを目的とする。

キーワード

1. 主要部　head
2. 完結　completion
3. 意味構造　semantic structure
4. 動作／状況　action／situation
5. 可能表現　expression of possibility

目　次

1　“Ｖ到”表現について
1.1　主要部前項型の“Ｖ到”
1.2　“Ｖ到”における“-到”の働き
2　“Ｖ到”、日本語他動詞・複合動詞の意味構造
2.1　“Ｖ到”と日本語他動詞
2.2　“Ｖ到”と日本語複合動詞
3　動作と状況
3.1　“Ｖ到”と日本語自動詞
3.2　“Ｖ到”と日本語可能表現
4　まとめ

## 1　“Ｖ到”表現について

### 1.1　主要部前項型の“Ｖ到”

“Ｖ**到**”は、「動詞＋結果補語」形式をとる他の成分と同様に一つのまとまった単位として働き[4)]、意味的な比重はいわゆる前項のＶにあるとされるのが一般的である。

待場 1990：43-45、51、53 は、結果を表わす動補構造には、例えば

(5) 我推**醒**他。

における“推**醒**”のように、語義の重点が後項である補語にあり、前項である動詞は二次的な意味しか表わさないものと、

(6) 我们要抓**住**这个机会。

における“抓**住**”のように、語義の重点が前項である動詞にあり、後項である補語には二次的な、補足的な意味しか認められないものが存在するとした上で、“Ｖ**到**”は後者のパターンに属するとして

(7) 他不知道别人怎么会碰**到**那么多新鲜事儿，怎么会想得出那么多特别的主意，怎么会具备那么多离奇的经历，怎么会记牢那么多怪异的故事，又怎么会讲得那么动听。
（高晓声＜陈奂生上城＞）

を挙げている。同様に、山口 1993：124、132-133、138 は、中国語の複合動詞(いわゆる「動詞＋結果補語」、「動詞＋方向補語」)のうち、後項が結果補語であるものは、例えば

(8) 她洗**累**了。

における“洗**累**”のような、複合動詞全体の意味を後項が伝えているもの、すなわち意味的な重点が後項にあるために後項が主要部[5)]となっているものと、

(9) 孩子睡**着**了。

における“睡**着**(zháo)”のような、意味的な重点が前項にあって後項は動詞としての本来の意味が虚化し、前項に対する修飾語やアスペクト辞のように働いているに過ぎないために前項が主要部となっているものとに分けることができるとし、“-**着**(zháo)”と同様に前項が主要部である複合動詞の後項となりえる成分として“-**到**”を挙げている[6)]。“Ｖ**到**”、“Ｖ**着**(zháo)”における“-**到**”、“-**着**(zháo)”の意味が

虚化している点については、陈永生 1992：351、王红旗 1995：148、154、项开喜 1997：179 にも記述がみられ、Vに対して従属的な地位を占める成分であることがみてとれる。

このように、“-到”は前項であるVにいわば従属する形で動作の結果を表わす成分である。「結果」が具体的な場面においてどのようなものとなるかは、いうまでもなく前項のVが表わす動作により決定されるため、“-到”自身が表わす概念は抽象化しているということができる[7)]。

ところで、大河内 1980:65 が指摘しているように、結果補語をいわゆる「補語」とみるか語の形態変化とみるかについては意見が分かれており、“V到”における“-到”の位置づけについてもさまざまな見解が存在する。このことは、黄华 1992：630-632 が、“V到”を一つの動詞とし“-到”を“构词成分”とする郭翼舟、黎锦熙や、“-到”を“助词”とする李人鉴の考え方を批判的に紹介する一方、“-到”を“趋向动词”であるとする≪现代汉语八百词≫の考え方を支持していることからもうかがわれる。“V到”形式をとる成分の中には、『岩波 中国語辞典（“感到”の項）』における“感到”のように一語として辞書に収録されているものも存在するため、“-到”を“构词成分”とする考え方を完全に否定することはできない。また、前掲の山口 1993 のように“-到”をアスペクト辞のような働きをする成分とみなすものや、大河内 1980：69-70 のように可能補語の否定形においては「結果体の否定」というアスペクトの問題から可能の意味が生じるとする考え方をとるもの、あるいは木村 1981：43 のように“V到”を含めた「動詞＋結果補語」が表わす「働きかけ ── 結果」を「動作アスペクト対結果アスペクト」のような対立とみなすことを提唱しているものも存在する。一方、讃井 1996：29-31 には、“-到”、“-着（zháo）”は“-完”や“-起来”などと同様に、「動作それ自体の展開のしかた」を表わす成分であっていわゆるアスペクト辞とは異なる、すなわち

（10）你丢的钱包我找到了。

のような表現に用いられる“-到”は「動作の完結」を示すと同時に、その結果「どうなったか」についての抽象的な意味をも合わせもっているが、動作の完結は動作の展開に関与する言語形式の文法的意味であり、“了”、“着（zhe）”、“过”、“的”などによるアスペクトとは区別されるべきものである旨の記述がみられる[8)]。讃井の記述からは、“-到”が“-完”などと同様に語彙的意味をとどめつつも動詞に対して文法的な働きをする成分としての性格を帯びており、アスペクト辞のような純然たる機能語とはなりきっていないものの、動作のありようについて述べる成分である点においてそれに準じる働きを有することがうかがわれる。このことは、前掲の

（5）我推醒他。　　（8）她洗累了。

における“醒”、“累”がいずれも具体的な概念を表わしており、かつ、それぞれの前項が表わす動作“推”、“洗”によって生じた別個の出来事を表わしているのに対し、“V到”においては“-到”が表わす意味の具体性が弱く、「“V到”が表わす動作＝過程＋結果」の形で一つの出来事を表わしていることによっても明白である。

従って、同じく「動作の過程（働きかけ）── 結果」の関係を表わすとはいうものの、主要部前項型の“V到”と主要部後項型の“推醒”、“洗累”などでは性格が大きく異なり、両者を「動詞＋結果補語」という一つの類としてあつかうことや、それぞれの後項が表わす概念をともに「結果」とよぶことの妥当性についても再検討の余地があると考えられる[9)]。

### 1.2　“V到”における“-到”の働き

1.1 で述べたように、“V到”における“-到”はその意味が虚化・抽象化しているものの、本来の語彙的意味を失っているわけではない。“-到”の位置づけについて様々に意見が分かれているのも、アスペクト辞に比べ語彙的意味を強くとどめているためと考えられる。荒川 1989：20-21 は、結果性を表わす補語の中には（前項の）動詞の意味の一部に重なるものがあり、これらは単に「動作の結果」を表わすだけでなく、程度の差こそあれ実質的な意味をも保持しているとしている。このことは、张麟声 1993：151-152 が、日本語の複合動詞は、例えば

押し込む：無理に入れる
書き出す：多くの中から必要なところを一部取り出して書く

のように、文字通りの意味以外にしばしば一種の付加的な意味を帯びるのに対し、中国語の「動詞＋結

果補語」からなる動詞フレーズは原則としてその文字通りの意味しか表わさないとしている[10]こととも符合する。张麟声の指摘によれば、“-到”も文字通りの意味しか表わさないこととなるが、“-到”の文字通りの意味とは、言うまでもなく「到達する」であり[11]、これが“-到”の表わす「結果」である。“-到”が「到達する」という具体的な概念をとどめていることは、荒川 1986：31 に、

（11）礼物，我收下了。
（12）礼物，我收到了。

の両者を比較した場合、(11)は「自分のものにした」ことを、(12)は「とどいた」ことを表わす旨の記述がみられることからも理解できようし、一般には、前項動詞と後項動詞が「動作の過程(働きかけ) ――結果」という意味構造をもつ場合、日本語複合動詞においては、「動作･行為を表わす他動詞＋結果を表わす他動詞」の組み合わせによってコトガラが表現されるのに対し、中国語の「動詞＋結果補語」においては、「動作･行為を表わす他動詞＋結果を表わす自動詞」の組み合わせによってコトガラが表現されると解されている[12]ことによっても裏づけられよう。後項成分である“-到”が自動詞としての性格を有することは、石村 1999：151 が、中国語の結果構文は日本語や英語のような「ある行為をするか否か」といった行為者視点から述べられるのではなく、「ある状態(完了点)に至ったか否か」という叙述の仕方をするとしていることとも符合する。石村の記述からは“-到”が空間的到達点(客体)から時間的到達点(動作の完結段階)を示す働きをも帯びるにいたった[13]ことがうかがわれ、この過程は“-到”の概念の虚化・抽象化の過程であるということができよう。このように、“-到”は「到達する」という動詞としての概念をとどめているが、どのような形で何に到達したかは、前項であるＶおよび“Ｖ到”に後続する名詞が表わす概念によって決定されることとなる。このことは換言すれば、“-到”は動詞としての具体的な概念をとどめつつも、組み合わされる個々の動詞の側からみれば、一定の共通した働きをする成分としてその意味が抽象化されているということである[14]。このことを、例えば(2)の表現例にあてはめれば以下のようになる。すなわち、“捡到”が表わす内容を、前項、後項それぞれの役割に忠実に日本語で表現すると、「“捡”という動作を行なった(＝拾おうとした)結果、動作が客体である“钱包”に到達した」となる。この場合、“捡”は客体である“钱包”に働きかける過程段階を表わしている。このように、“Ｖ到”におけるＶは、日本語であれば「～(し)ようとする」によって表わされるような、客体に働きかける動作の過程段階を、“-到”は動作の完結段階をそれぞれ表わす[15]。

ところで、荒川 1989：18 には、“-到”には

（13）这本书我到处托人买，今天可买到了一本。
（≪实用现代汉语语法≫：330）

のように達成を表わす場合と

（14）在哪儿捡到的？

のように偶然性を表わす場合があり、(14)は

（14）’在哪儿捡的？

と同様に「どこで拾ったの？」とたずねる場合に用いることが可能であるのに対し、例えば

（15）　这是偶然捡到的。
（15）’＊这是偶然捡的。

のように表現中に“偶然”のような副詞が含まれている場合には“-到”が必要となる旨の記述がみられる。荒川の記述からは、“Ｖ到”が表わす出来事は必ずしも主体の意図によって実現するものであるとは限らず、偶然の結果として非意図的に実現するものであるケースも存在し、偶然の結果であることを明示する成分が含まれる場合には“-到”が不可欠となることがうかがわれる。前述したように“-到”はその「到達する」という語彙的意味によって前項の動作が「空間的・時間的到達点に達する」ことを表わし、この働きが(13)においては「あらかじめ行なおうとしていた動作が完結した」という達成として、(14)、(15)においては「本来は行なうつもりではなかった動作をなりゆきによって行なうこととなり､それが完結した」という偶然の結果として、それぞれ具現化していると考えられる[16]。

冒頭で述べたように、“Ｖ到”において“-到”が表わす「結果」は一般に、動作がその目的を達したこと、成就したことであるとされる。しかし、目的

が存在することは主体の意図によって動作を行なうことが前提であり、意図とは無関係に実現した動作を表わす場合についての説明ができないため、“-到”の働きについてのこのような説明は厳密性に欠けるといわざるを得ず、≪动词研究≫：340 のように“表示动作的着落(動作の結着あるいは帰結を表わす)”とする方が実態をより正確に反映しているということができよう[17]。

## 2 “Ｖ到”、日本語他動詞・複合動詞の意味構造

### 2.1 “Ｖ到”と日本語他動詞

“Ｖ到”に対して日本語他動詞が対応する例としては、

(2) 我捡**到**了一个钱包。
(2)’私は財布を**拾った**。

のほか、さらに以下のようなものが挙げられる。

(16) 警察已经抓**到**那个小偷了。
(郭春貴 2001：366)
(16)’警察はもうあの泥棒を**捕まえた**。(同上)

(17) 我买**到**了书。(丸尾 1997：117)
(17)’私は本を**買った**。(同上)

(18) 我借**到**了一本书。
(18)’私は本を一冊**借りた**。

(19) 他看**到**了桌子上的黑面包。
(来思平・相原茂 1993:153)
(19)’彼は机の上の黒パンを**見た**。(同上)

(20) 我听**到**一阵脚步声。
(20)’私は足音を**聞いた**。

このような対応関係が成立する要因としては、中国語動詞は必ずしも日本語動詞のように動作の完結段階までを表わさないこと、すなわち日中両言語で対応するとされる動詞の意味構造の相違が挙げられる。この点についてはこれまでにもしばしば指摘がなされており、杉村 1982：60-61 には、日本語には形態的に対応する自動詞(またはそれに準じる表現)[18]をもつ結果偏重の他動詞が多いのに対し、中国語には結果までをも含めていう動詞が少なく[19]、自他両用の「動詞＋結果補語」によってこれを補っている旨の記述がみられる[20]。また、荒川 1981:19-20、同 1982：82、同 1985ａ：5、同 1986：30 には、“记**住**”における“记”は覚えようとする行為そのものであって“记**住**(了)”となってはじめて結果までが含まれるため、

(21) 记了，可是没记**住**。

は自然な表現として成立するのに対し、これに対応する日本語の表現である

(21)’？覚えたが覚えられなかった。

は不自然(あるいはやや不自然)であり、

(21)”覚えようとしたが覚えられなかった。

としなければならない[21]一方、

(22) 找了，可是没找**到**。

に対応する

(22)’さがしたが、見つからなかった。

は、「さがす」が行為(本稿でいう「動作の過程(働きかけ)」)を、「見つかる」が結果を表わしているため自然な表現として成立することから、一見対応すると考えられる動詞のペアでは、日本語の動詞が多く結果までをもその意味範囲に含めているのに対し、中国語では行為のみに重点を置くものが多い旨の記述がみられる[22]。

(21)’が不自然となるのは、「覚える」が(21)の“记”とは異なり、結果を含意する動詞であるため、前件と後件との間に論理的な矛盾が生じていることに起因する。

丸尾 1997：115 の記述にみられるように、中国語においては

(23) 今天我买了一本书。

のような“-到”を用いない“Ｖ了”形式によっても結果を含意することが可能である。このことは、荒川 1989：17 に

(2)　我捡到了一个钱包。
(2)’我捡了一个钱包。

はいずれも「(財布を)偶然ひろった」ことを表わす表現として用いることが可能である旨の記述がみられる点によっても理解できよう[23]。しかし、“Ｖ了”は働きかけについて述べる形式であって必ずしも結果までを含意せず、結果を含意するためには一定の条件が必要である[24]。このため、“Ｖ了”単独でみれば､動作が客体に到達したか否か(＝動作が完結したか否か)はそれが形式に反映されていないため必ずしも確定してはいないこととなる。動作の過程に比重を置く中国語動詞のこのような性格は、動作そのものが客体への到達をともなわない“找”や、結果に比重を置く“见”をペアとし、それ自身は過程を表わす傾向が強い“看”において最も鮮明にあらわれる[25]が、他の動詞にも程度の差こそあれ備わっている。このことは、荒川 1986：31-33 に、中国語動詞が“Ｖ了，(可是)没ＶＣ”の形式に用いられた場合にはこの形式の影響を受けて動作の過程を表わすにとどまる旨の記述がみられることや、同 1982：83 が、

(24) 借了半天，可是没借到。
(25) 买了半天，可是没买到。

における“借了”、“买了”はそれぞれ「借りよう」、「買おう」としただけで結果までを意味しないとしていることによっても理解できよう[26]。同 1986：31 には、

(26) 买了，可是没买到。

はインフォーマントによって成立の可否についての判断が分かれる旨の記述がみられるものの、(24)、(25)や

(27) 你要的那本书我给你借了，可是没借到。
(丸尾 1997：115)
(28) 这本书现在买不到了，不信你去买买看。
(松村 1997:60 を一部修正)

が成立することからみて、中国語の動詞が動作を行なおうとする過程段階を表わすにとどまるケースが存在することは否定できず、この点において動作の客体への到達が確定されている“Ｖ到”とは異なることがみてとれよう。

ところで、待場 1990：50 には、(5)の“推醒”のような主要部後項型「動詞＋結果補語」が表わす出来事を日本語で表現する場合には、後項のみを日本語に置き換える方が自然な表現となるのに対し､(6)の“抓住”や本稿の考察対象である“Ｖ到”をはじめとする主要部前項型「動詞＋結果補語」の場合には、前項を中心に表現する旨の記述がみられる。前述したように、“-到”が表わす「結果」は「動作の客体への到達」であり、どのような形で何に到達するかというような、動作によって異なる結果の具体性は捨象されているため、1.1 で述べたように主要部後項型「動詞＋結果補語」の場合のように前項Ｖが表わす動作と切り離された別個の出来事ではなく、動作(＝過程＋結果)の一部分であり、この段階は“Ｖ到”に対応する日本語他動詞に内包されていることとなる。このような考え方に対しては、前掲の(2)’、(16)’～(20)’における動詞が「-タ」をともなっているため、動作の完結は「-タ」によって表わされているのではないかという疑問が想定されるが、この疑問は、例えば

(29) 他领到往返电车费，常常只乘单程，而走着回来。(≪学友现代日语Ⅲ≫：275)
(29)’彼は前から往復の電車賃を**もらう**と片道を買って、帰りは歩いて来ることをよくした。(同：259、志賀直哉『小僧の神様』)

のような対応関係が成立することによって解消される[27]。(29)’は、全体としては発話時点においてすでに完了したコトガラを表わしているものの､「もらう」自身は「-タ」をともなってはいない。

(2.2 以降は次号に続く)

注

1）本稿の考察対象である“Ｖ到”表現は、Ｖがいわゆる他動詞で客体を表わす名詞を目的語とするものであり、Ｖが他動詞であっても“他一直把我送到村口。(≪现代汉语八百词(“到”の項)≫)”、“昨天晚上我们谈到十点半。(≪实用现代汉语语法≫：333)”のような、“-到”に後続す

る名詞がVの客体を表わさない表現や、“汽车停**到**学校门口。(黄华 1992：620)”、“他跑**到**复旦大学。(陈永生 1992：350)”のような移動動作を表わすいわゆる自動詞表現は除く。本稿であつかう表現においては、“-**到**”に後続する名詞は陈永生 1992：352 がいうように“V**到**”の目的語であり、Vの補語は“-**到**”のみであるのに対し、上記の表現例においては“-**到**”は後続の名詞と一体になり“**到**＋N”で一つの成分(Vに対する補語)とされる。“V**到**＋N”表現の分類については陈永生 1992：350-351、黄华 1992：620-625、项开喜 1997：156-158 を参照。

2）中国語の動詞と結果補語の間に「働きかけ」と「結果」という意味的な分担があるという点については、木村 1981：39 を参照。“-**到**”の働きについて、≪现代汉语词典(“**到**”の項)≫は“用做动词的补语. 表示动作有结果”、≪现代汉语八百词(“**到**”の項)≫は“动＋到〔＋名(受事)〕。表示动作达到目的或有了结果。”、『中日大辞典(“**到**”の項)』は「動作が目的に到達したこと、成就したことを表す」としている。

3）“找**到**”に対しては「見つかる」のほか「見つける」を対応させることも可能である。この点については成戸 2009ａ：64-71 で述べたほか、3.1(次号掲載)でもふれる。

4）朱德熙 1982：126 は、“带结果补语的述补结构在语法功能上相当于一个动词”としている。陈永生 1992：349-350 には、“V**到**”は“短语”であり“一个相对完整的语言单位”である旨の記述がみられる。

5）「主要部」については、中国語の結果構文について論じた石村 1999：142、日本語の複合動詞について論じた森山 1988：46 を参照。また、山口 1993：123 は、中国語の“動詞＋結果補語”、“動詞＋方向補語”と日本語複合動詞との対照を行なうにあたり、前項、後項のうち、1.意味的な重点はいずれにあるか、2.それぞれの形式全体の自・他を決定するのはいずれか、3.文中の名詞句と共起しえるのはいずれか、のような基準によって主要部を認定している。

6）“V**到**”における主要部がVである点については、さらに陈永生 1992：350 を参照。

7）“-**到**”が表わす概念の抽象性については、さらに陈永生 1992：351、松村 1997：59 を参照。一方、木村 1981：39-40 が、動詞が語彙的意味の明確な結果補語をともなう他動表現においては、結果補語の表わす情況あるいは状態は常に(仕手ではなく)受け手のことをいったものであるとしていることからは、主要部後項型「動詞＋結果補語」における結果補語が具体的な概念を表わすことがみてとれる。ちなみに、『岩波 中国語辞典(“-**到**”の項)』は、“-**到**”の働きの一つとして「動作が具体的なものや場所に到達するのではなく、抽象的にある点に到達し、またはある程度に達したこと、ある程度を獲得したことなどを示す(この場合は到達点を示す目的語は必ずしも必要でない)」を挙げ、“看**到**了”、“买**到**了”などの表現例を収録している。

8）同：29 は、このような文法的意味はアスペクト論において「アクチオンスアルト」とよばれてきたものであるとしている。「アクチオンスアルト」の概念については、コムリー1988：22-23、副島 2007：40-46、須田 2010：121、137-138、150-151、175-177 を参照。ちなみに、楊凱栄 2001：63 には、“了”は perfective として、ある動的事態が完結性を有し、かつその動的事態が完了している性質を有するものとして認識されるアスペクト形式であり、より結果補語に近いといわれる“-**完**”によって表わされる終結相とはおのずと異なるものである旨の記述がみられる。石村 2011：97-120 は、英語の進行形、完了形のように文法化されたアスペクトに対し、「語あるいはそれを含む述語の持つ意味と結びついたアスペクト(Aktionsart ともよばれる)」の意味でアスペクトという用語を用いている。

9）待場 1990：44-45、53 は、前項との間に意味上の因果関係を有しない後項を結果補語とよぶことの妥当性について疑問を呈しており、そのような場合の例に“见**到**(であう)”、“买**到**(買って手に入れる)”のような“V**到**”形式の成分を含めている。

10）但し、同：161 の記述にみられるように、张麟声は「結果補語」の中にいわゆる“趋向补语”の派生的意味を含めている。日本語複合動詞が一種の付加的な意味を帯びるという点については、「～て～する」形式との相違について述べた石井 1987：59、待場 1990：44、森田 1990：289-291 を参照。

11）『現代中国語辞典(“-**到**”の項)』は、“-**到**”の働きの一つとして「獲得・感覚・認識を表す動詞の後につけ、動作が対象に到達したことを表す」を挙げ、“买**到**了”、“听**到**了声音”などの表現例を収録している。黄华 1992：625 には、“V＋**到**＋N”には“持续态”が用いられない旨の記述がみられ、このことは、“-**到**”が「到達する」といういわゆる瞬間動詞としての意味をとどめていることと関連があると考えられる。

12）この点については、杉村 1982：60、石井 1987：59-60、望月 1990：13、山口 1993：125、石村 1999：142 を参照。但し、荒川 1985ａ：5 の記述にみられるように、中国語の「動詞＋結果補語」の中には“听懂”のように「他動詞＋他動詞」の組み合わせをもつものも存在する。

13）木村 1981：39 は、「動詞＋結果補語」が表わす「働きか

け」と「結果」との間の先後関係もしくは因果関係の間には、一種の時間軸に沿った方向をみてとることが可能であるとしている。

14) この点については1.1でもふれた。

15) ≪实用现代汉语语法≫：331には、“-到”が“-完”とともに“表示动作是否‘完结’、是否‘达到了目的’”という働きを有する旨の記述がみられる。ちなみに、木村1981：39、41には、結果補語が表わす「結果」とは「働きかけ」のいたるところ、すなわち結着点（＝時間的な「帰着点」）である旨の記述がみられる。「完結」という用語については1.1で紹介した讃井1996：29-31のほか、安本2009：25-26を参照。

16) 意図性の有無にかかわらず動作が完結したことを表わす“Ｖ到”の働きについては、≪动词研究≫：339-341、项开喜1997：159-160を参照。

17) 陈永生1992：350-351には、“Ｖ到”における“-到”の働きは“表示动作行为的实现”である旨の記述がみられる。

18)「自動詞に準じる表現」としては、例えば「受身表現」、「使役表現」などが考えられよう。これらの表現は、自動詞の場合と同様に、コトガラを「ドウスル」ではなく「ドウナル」として表わす働きを有する。この点については、森田1977：467-468、同1990：136-138を参照。

19) 但し中国語動詞の中には、結果に比重を置いた“见”のようなものも存在する。この点については荒川1981：22を参照。

20) この点については、さらに荒川1986：31-32、33、杉村1988：221を参照。杉村1982：61には、“到”が“完”や“死”と同じく結果偏重の自動詞である旨の記述がみられる。

21) (21)’と同様の例としては、石村1999：147の「＊ずいぶん買ったが、買えなかった。／＊ずいぶん借りたが、借りられなかった。」が挙げられる。

22) 荒川1981：21-22には、中国語の“找”と日本語の「さがす」との間にも結果までを含意するか否かの点で相違が存在する旨の記述がみられる。石村1999:147-148は、動詞が行為の結果の達成までを含んでいるか否かという観点から、英語・日本語・中国語における動作主の行為の影響がおよぶ範囲の相違について考察を行なっている。池上1981：256-269を参考にした同：147には、日英両言語で対応するとされる動詞を比較した場合には、行為の結果の達成を含意するのは常に英語動詞であり、達成を必ずしも含意しないのは日本語動詞であるため、このようなことは言語の指向性の問題である旨の記述がみられる。

23) 1.2で述べたように、“Ｖ到”表現は意図的な動作の結果、偶然の結果のいずれを表わすことも可能である一方、表現中に“偶然”のような成分が含まれる場合には“-到”が必要である。このことから、“Ｖ到＋客体”表現は意図的な（＝動作が客体におよぶことまでが主体によって意識される）動作、非意図的な（＝動作が客体におよぶことまでは主体によって意識されない）動作のいずれを表わすことも可能であることがみてとれる。ちなみに、“Ｖ（他動詞）＋到・トコロ”表現は、荒川1984：12の記述にみられるように非意図的な動作を表わす。

24) 荒川1981：21は、行為に重点のある動詞であっても、目的語がその行為によって生み出されたものである場合には全体として結果の表現になるとし、同1985ｂ:6には、“吃”、“看”のように持続可能な動作を表わす動詞を用いた場合、“Ｖ了”表現が成立するためには「一定量の動作である」という前提が必要である旨の記述がみられる。この点についてはさらに同 1981：2 を参照。また、同1986：31-33は、“看了／听了／说了／吃了／买了”などは、ある特定の対象についての発話とすればこれだけで一定の結果に達したことを意味し、目的語に数量限定語を加えても結果が生じたことを表わすとしている。

25) 荒川1985ａ：5は、“看了，可是没看见。”の“看”は単に見ようとする行為だけで見えたかどうかまではいっていないとしている。この点については成戸 2011:51-54で述べた。

26) 杉村1988：221は、“修了”、“治了”は「直った」、「治った」までも意味することがないわけではないが、これは言語外の状況に負ぶさって表わされた「結果」であるとしている。

27) 荒川1981：20-21には、結果までを意味範囲に含める日本語動詞と行為のみに重点を置く中国語動詞との傾向の差は、それぞれの動詞が「タ形」をとった場合、“-了”をともなった場合に明確にあらわれる旨の記述がみられる。但し荒川は、日本語動詞の「結果」が「タ形」によって表わされるとはしておらず、結果までを意味するかどうかは動詞そのものだけでなくその動詞のsyntagmaticな環境からも問題になるものであるとしている。

## 参考文献

愛知大学中日大辞典編纂処編『中日大辞典（増訂第二版）』，大修館書店（1987）。

荒川清秀 1981.「中国語動詞にみられるいくつかのカテゴリー」，『文学論叢』第67号，愛知大学文学会，1-25頁。

荒川清秀 1982.「中国語の語彙」，森岡健二・宮地裕・寺村秀夫・川端善明編集『講座 日本語学 12 外国語との対照Ⅲ』，明治書院，62-84 頁。

荒川清秀 1984.「中国語の場所語・場所表現」，『愛知大学外国語研究室報』第８号，1-14 頁。

荒川清秀 1985ａ.「補語〔結果補語・方向補語・可能補語・程度補語〕」，『中国語』1985 年 11 月号，大修館書店，4-6 頁。

荒川清秀 1985ｂ.「動詞(1)」，『中国語』1985 年 7 月号，大修館書店，4-6 頁。

荒川清秀 1986.「中国語動詞の意味における段階性」，『中国語』1986 年 9 月号，大修館書店，30-33 頁。

荒川清秀 1989.「補語は動詞になにをくわえるか」，『外語研紀要』第 13 号，愛知大学外国語研究室，11-24 頁。

池上嘉彦 1981.『「する」と「なる」の言語学 ── 言語と文化のタイポロジーへの試論 ── 』，大修館書店。

石井正彦 1987.「複合動詞の成立条件」，寺村秀夫・鈴木泰・野田尚史・矢澤真人編集『ケーススタディ 日本文法』，おうふう(1998)，56-61 頁。

石村広 1999.「現代中国語の結果構文 ── 日英語との比較を通じて ── 」，『文化女子大学紀要 人文・社会科学研究』第７集，141-155 頁。

石村広 2011.『中国語結果構文の研究 ── 動詞連続構造の観点から ── 』，白帝社。

大河内康憲 1980.「中国語の可能表現」，『日本語教育』第 41 号，日本語教育学会，61-73 頁。

郭春貴 2001.『誤用から学ぶ中国語 ── 基礎から応用まで ── 』，白帝社。

木村英樹 1981.「被動と『結果』」，『日本語と中国語の対照研究』第 5 号，日中語対照研究会，27-46 頁。

倉石武四郎『岩波 中国語辞典 簡体字版』，岩波書店(1990)。

倉石武四郎・折敷瀬興編『岩波 日中辞典』，岩波書店(1983)。

香坂順一編著『現代中国語辞典』，光生館(1982)。

讃井唯允 1996.「結果補語・方向補語とアクチオンスアルト(1)」，『中国語』1996 年 7 月号，内山書店，28-31 頁。

杉村博文 1982.「『被動と“結果”』拾遺」，日本語と中国語対照研究会編『日本語と中国語の対照研究』第 7 号，58-82 頁。

杉村博文 1988.「可能補語の考え方」，大河内康憲編集『日本語と中国語の対照研究論文集(上)』，くろしお出版(1992)，213-232 頁。

須田義治 2010.『ひつじ研究叢書＜言語編＞第 65 巻 現代日本語のアスペクト論 形態論的なカテゴリーと構文論的なカテゴリーの理論』，ひつじ書房。

副島健作 2007.『ひつじ研究叢書＜言語編＞第 44 巻 日本語のアスペクト体系の研究』，ひつじ書房。

成戸浩嗣 2009ａ.「視覚動作を表わす表現の日中対照 ──「見つける／見つかる」、「見かける」に対応する中国語の表現 ── 」，『コミュニティ政策学部紀要』第 12 号，愛知学泉大学コミュニティ政策学部，59-79 頁。

成戸浩嗣 2011.「視覚動作を表わす表現の日中対照(2) ──『見る』、『見える』に対応する中国語の表現 ── 」，『コミュニティ政策学部紀要』第 14 号，愛知学泉大学コミュニティ政策学部，49-74 頁。

バーナード・コムリー著／山田小枝訳『アスペクト』，むぎ書房(1988)。

待場裕子 1990.「日中の複合動詞の対照研究(一) ── 中国語の『動詞＋結果補語』構造の場合」，『流通科学大学論集 ── 人文・自然編 ── 』第２巻第２号，41-60 頁。

松村文芳 1997.「結果補語(動詞)を持つ動詞の意味特徴」，『中国語』1997 年 10 月号，内山書店，58-60 頁。

丸尾誠 1997.「“Ｖ＋到＋Ｌ”形式の意味的考察」，『中国言語文化論叢』第１集，東京外国語大学中国言語文化研究会，103-123 頁。

望月圭子 1990.「日・中両語の結果を表わす複合動詞」，『東京外国語大学論集』第 40 号，13-27 頁。

森田良行 1977.『基礎日本語』，角川書店(12 版 1987)。

森田良行 1988.『日本語の類意表現』，創拓社。

森田良行 1990.『日本語学と日本語教育』，凡人社。

森山卓郎 1988.『日本語動詞述語文の研究』，明治書院。

安本真弓 2009.『現代中国語における可能表現の意味分析 ── 可能補語を中心に』，白帝社。

山口直人 1993.「日本語と中国語の複合動詞に関する対照研究」，『東亜大学研究論叢』第 18 巻第 1 号，121-147 頁。

楊凱栄 2001.「中国語の“了”について」，つくば言語文化フォーラム編『「た」の言語学』，ひつじ書房，61-95 頁。

来思平・相原茂著／喜多山幸子編訳『日本人の中国語 誤用例 54 例』，東方書店(1993)。

陈永生 1992.＜也谈动词后面的“到” ── ≪谈谈动词谓语后面的“到”的性质和作用≫质疑＞，北京语言学院语言教学研究所选编≪现代汉语补语研究资料≫，349-358 页。(原载≪重庆师范学院学报≫1981 年第 2 期)

郭翼舟 1957.≪汉语语法知识讲话 ── 副词、介词、连词≫，上海教育出版社。

胡裕树・范晓主编≪动词研究≫，河南大学出版社(1995)。

黄华 1992.＜“动(形)＋到＋……”的结构分析＞，北京语言学院语言教学研究所选编≪现代汉语补语研究资料≫，620-633 页。(原载≪天津师大学报≫1984 年第 5 期)

黎锦熙・刘世儒≪中国语法教材≫，商务印书馆(1953・1955)。

李人鉴 1958．＜谈“到”的词性和用法＞，≪文史哲≫1958年第9期，山东人民出版社，51-55页。
刘月华・潘文娱・胡斐≪实用现代汉语语法≫，外语教学与研究出版社(1983)。
吕叔湘主编≪现代汉语八百词(增订本)≫，商务印书馆(1999)。
王红旗 1995．＜动结式述补结构配价研究＞，沈阳・郑定欧主编≪现代汉语配价语法研究≫，北京大学出版社，144-167页。
项开喜 1997．＜与“Ｖ到ＮＰ”格式相关的句法语义问题＞，南开大学中文系≪语言研究论丛≫编委会编≪语言研究论丛≫第七辑，语文出版社，156-180页。
张麟声 1993．＜日中動詞の対照研究＞，≪汉日语言对比研究≫，北京大学出版社，139-161页。
中国社会科学院语言研究所词典编辑室编≪现代汉语词典2002年增补本≫，商务印书馆(2002)。
朱德熙 1982．≪语法讲义≫，商务印书馆。

## 用例出典

日本国际学友会日本语学校编≪学友现代日语Ⅲ≫，北京出版社(1984)。
高晓声＜陈奂生上城＞，≪中国当代著名作家文库 高晓声代表作≫，黄河文艺出版社(1987)。

（原稿受理年月日　2013年12月3日）